

## ThorensTD124 の再構成(3)

### —iPhono—

#### 1. 始めに

フォノステージに関して ZANDEN Model 120 に替え iPhono を使用してみます。

#### 2. ThorensTD124 の試聴方法

このところ ThorensTD124 のフォノステージは ZANDEN Model 120 を使用していますが、イコライザーカーブを替えられる iPhono を使用してみます。

再生経路は次のとおりとします。

ThorensTD124→My Sonic STAGE 1030→iPhono→Brooklyn DAC+

iPhono ではイコライザーカーブの RIAA、DECCA、Columbia を切り替え、Brooklyn DAC は位相反転機能を使用します。

ThorensTD124 のフォノケーブルのアースは、Crystal E-G に接続し、STAGE 1030 と iPhono と Brooklyn DAC+ のアースは Crystal E に接続しています。iPhono と Crystal E との接続にはアースアキュライザーを使用しています。

今回の条件は、Marantz7 を借りる予定で、その際の配線の確認の意味もあります。



試聴対象のアナログ盤は RIAA、DECCA、Columbia のカーブのものから下記を選択しました。

**LONDON 300R 560009**

モーツァルト ディヴェルティメント第 17 番

ウィリー・ボスコフスキー指揮ウィーンモーツァルト合奏団

**TACET TACET241**

ベートーヴェン 交響曲 6 番《田園》

Wojciech Rajski 指揮ポーランド室内フィルハーモニー管弦楽団

**Columbia M2S 728**

ショパン バラード 1 番

ウラジミール・ホロヴィッツ (ピアノ)

## 2. ThorensTD124 の試聴結果

モーツアルトのディヴェルティメント第 17 番は、iPhono は DECCA カーブの設定で、Brooklyn DAC+は位相反転により再生しましたが、これまでより音の精度が向上し、アンサンブルの定位もよくなっています。

ベートーヴェンの交響曲 6 番《田園》は、RIAA カーブの設定で、Brooklyn DAC+は位相反転なしで再生しましたが、曲の表情を活かしたおだやかな鳴り方で、最近の収録だけあって、解像度も確保されています。

ショパンのバラード 1 番は、Columbia カーブの設定で、Brooklyn DAC+は位相反転により再生しましたが、ホロヴィッツの力強いタッチが再現されています。

iPhono におけるイコライザーカーブの RIAA、DECCA、Columbia の切り替えに加えて Brooklyn DAC+における位相反転の併用の有用性が確認できました。

上記の終了後、LINN LP-12 と ZANDEN Model 120 の配線に戻して、同じ盤を聴き直してみましたが、フォノステージの力量の差は歴然としており、曲の表情のリアリティの違いが分かりました。

## 4. まとめ

ThorensTD124 からのアナログ再生において iPhono によるイコライザーカーブの RIAA、DECCA、Columbia の切り替えと Brooklyn DAC+における位相反転が可能になりました。近々に Marantz7 を借りる予定ですが、その配線の確認ができました。

以上